

「土砂災害が起きるのは」

三重県 四日市市立西笹川中学校 2年

毎年七月ごろになると土砂災害のニュースが後を絶たずに増えています。近年の大きな土砂災害だと、二〇一八年七月五日から八日まで続いた広島中部での災害です。当時両親がこの災害のニュースを見ていたのを、そんなことに全く興味が無かった私でも鮮明に覚えています。被害が死者百人以上、千棟以上が全壊となり、両親に聞いてもこれ程多くの被害が出たのは記憶にないと言っていました。一体なぜ近年になり土砂での被害が増加したのだろうか。そのことがとても不思議に思い色々調べて自分なりに考えてみました。

そして土砂災害には三つの種類があることを知りました。まず斜面が崩れ落ちる「がけ崩れ。」斜面に溜まった土砂が一気に流れ出す「土石流。」斜面が地下水や重力によって下方に流れる「地滑り。」がありました。けれどもなぜこの様なことが近年になって多く起こっているのだろうか。このことが気になり父に聞いてみると、日本には梅雨があること、また、ゲリラ豪雨があること。というヒントをもらいました。このヒントを元に日本で近年頻繁に起こる土砂災害について考えました。

例にあげた広島の災害の時期をよく見ると、七月上旬に土砂災害が発生しています。七月上旬とは日本でいう梅雨の終わりぐらいに位置します。このことから、梅雨の時期に降った雨によって地盤が緩んでいたところに、そこからゲリラ豪雨が降ったことによって普段以上に土砂が流れ込んできたのではないだろうか。梅雨とゲリラ豪雨が重なることによって土砂災害が発生しやすい環境になっていると考えました。けれどもなぜ近年になり土砂災害が増加したように思えるのか。そのことが分からなくてまた父にヒントをもらいに行くと、今度は「ゲリラ豪雨という言葉は最近になりできた言葉だよ」と教えてくれました。これをもとに今はなぜ起こりやすいのかを調べて解決策を考えて見ました。調べてみて始めに気づいた事は、約五十年前に比べて今の平均気温は二度上がっているということです。なぜ上がっているのか。それには地球温暖化が関係していました。上がった温度がたったの二度だけだと思かもしれませんが、平均気温が一度上がるごとに通常よりも猛暑日が一、八倍も増えてしまうことが分かりました。「二度も上がってしまうと三倍以上になってしまうな」とこのことを調べた時に思いました。平均気温が上がることで地球に様々な影響をあたえます。その中にゲリラ豪雨が含まれます。地球温暖化により海の水位が上がり多くの水が蒸発して大きな積乱雲が冷やされることでゲリラ豪雨が発生します。そんな日本に影響を与える地球温暖化は森林伐採・二酸化炭素の増加などと、発生する原因がどれも日本をより良く発展させるためには必ず必要になってしまうことばかりです。けれども地球温暖化を止めなければこの先も災害が発生し、さらに被害を増やすことになってしまいます。そんな中、今の自分に何ができるのかを考えてみました。

考えた中で私たちが一番実行できそうなこと。それが「省エネ」です。私たちが日常的に使っている家電製品は多くの二酸化炭素が発生します。家電製品を使う時間を減らすことで二酸化炭素の増加を抑えることができます。「外出する時にエアコンの電源を消す」、「日中は部屋の電気を付けない。」など私たちが普段使っているもの使い方、量を工夫することで自然への影響を減らして災害を起りにくくすることが可能です。けれども、どれだけ私たちが地球を守ろうとしても起きてしまうのが災害です。その災害から命を守るにはどうしたらいいか次に考えました。

命を守る一つ目の方法は避難場所の確認です。避難場所を知っておかないと災害が起きた時にどこに避難すればいいかわからず巻き込まれる可能性があります。そういったことが起きないように自分の町のハザードマップなどを見て確認し地域のことをもっとよく知っておくことがとても大切だと思います。

二つ目は災害が起きる前の備えです。自分が生きるために必要な食料や日用品をバックに入れておくことや、家族で避難経路を確認するなど様々な備えがあります。その中で私が考えたことは、災害から命を守るには私たち一人一人が「自分の命は自分で守る」という意識を持つことが

大切だということです。災害が実際に起きてしまうとパニックになってしまうと思います。そんな中、自分が助けてもらおうと思わず自分で何とかしようという気持ちを常に持つておくことが自分自身にとっての最大の備えだと私は考えました。この考えを忘れずにこれからも災害について考えていきたいです。